

経営比較分析表（令和元年度決算）

鹿児島県 十島村

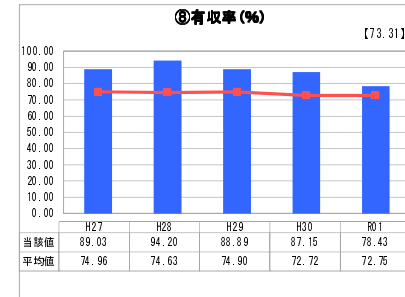
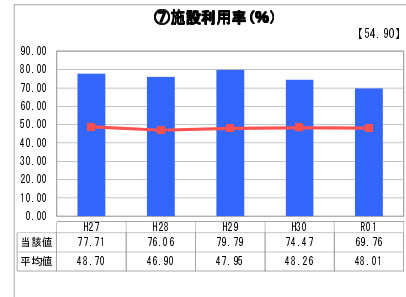
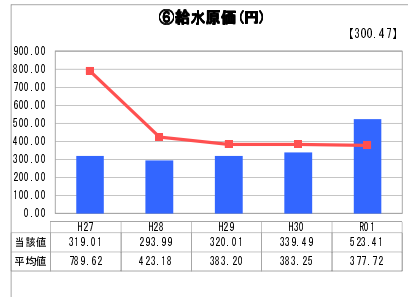
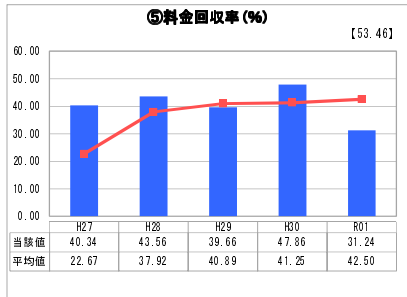
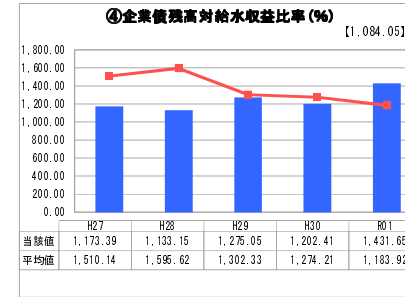
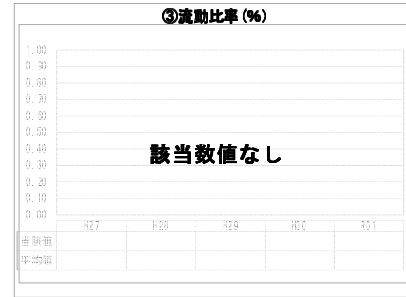
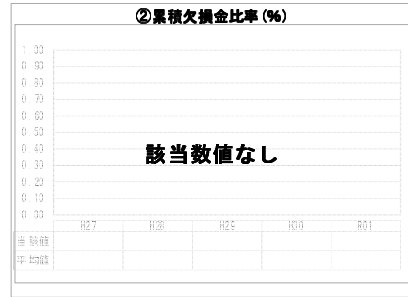
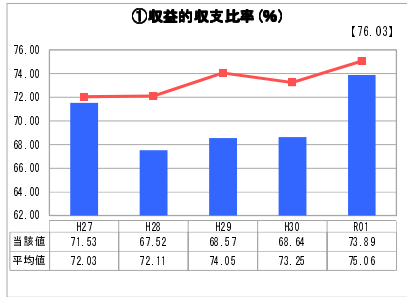
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|------------|--------------|---------|--------------------------------|--------|
| 法非適用 | 水道事業 | 簡易水道事業 | D4 | 非設置 |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 普及率 (%) | 1か月20m ³ 当たり家産料金(円) | |
| - | 該当数値なし | 100.00 | 2,700 | |

| 人口 (人) | 面積 (km ²) | 人口密度 (人/km ²) |
|------------|---------------------------|-----------------------------|
| 681 | 101.14 | 6.73 |
| 現在給水人口 (人) | 給水区域面積 (km ²) | 給水人口密度 (人/km ²) |
| 637 | 101.10 | 6.30 |

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- [] 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・収益的収支比率については、前年度より増加したものの、全国平均値を下回っていると100%を超えておらず、継続して赤字経営となっているため、引き続き、経営状況にあわせた料金体系の見直し等、増収対策が必要と考えられる。

・企業債残高対給水収益比率については、平成23年度以降、全国平均値を下回っていたが、元年度は増加に転じた。企業債残高に対し料金収入は多い状況となっているが、これまでの事業費規模で投資を継続した場合、令和10年前後に企業債残高及び償還金返済額のピークを迎える見込みとなっている。

・料金回収率については、営業収益(料金収入)に比べ、施設等の老朽化に伴う修繕費用が増加していることにより40%前後で推移している。日頃の定期的な保守管理体制の徹底等、適切な維持管理に努め支出額を抑えていく必要がある。

・給水原価についても料金回収率同様、引き続き適切な維持管理に努め支出額を抑えていく必要がある。

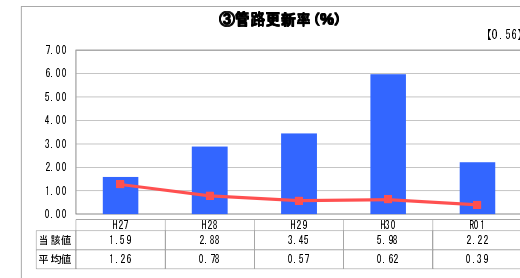
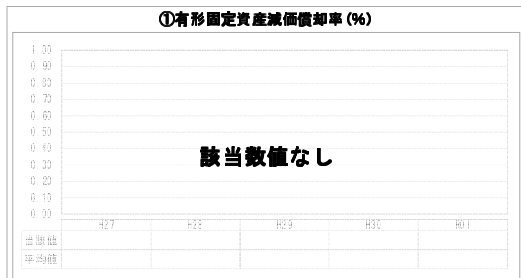
・施設利用率については、類似団体平均値よりも上回っていることから、施設の効率性は、高いものと推測するが、年々減少している点に留意する必要がある。

・有収率についても、類似団体平均値よりも上回っているものの、年々減少している点に留意する必要がある。今後も引き続き適切な施設管理に努め有収率の維持、上昇を図りたい。

2. 老朽化の状況について

・管路等、施設の老朽化も進んでおり、漏水事故等の発生も危惧されているが、財源との兼ね合いもあり管路更新率は2%前後となっている。類似団体と比較して高い値となっているものの、現状を踏まえると管路の更新投資を増やす必要性が高いと判断されることから、財源確保に向け経営改善や投資のあり方等について見直しを図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

・施設利用率、有収率では、類似団体平均と比較して高い値で推移している。収益的収支比率も平均値より増加したが、前年度以前は低い数値で推移していることから、施設の維持管理経費等をはじめとするコストの削減を徹底していく必要がある。

また、管路等、施設の老朽化への対応については、今後さらに対策経費が増加することが見込まれることから、財源確保に向け経営改善や投資のあり方等について見直しを図っていく必要がある。